

滋賀県立農業大学校シラバス 201

講座名	水田農業総論	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	--------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（2単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
滋賀県の土地利用型農業の特徴と課題 土地利用型農業の栽培体系 経営の成り立ちと経営シミュレーション

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回(4時間)	滋賀県の土地利用型農業の特徴と課題
第２回(4時間)	水稲・麦・大豆栽培体系と機械体系
第３回(4時間)	土地利用型経営の実態調査（農業法人・集落営農）
第４回(4時間)	土地利用型経営の成り立ちと経営シミュレーション
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
○自作資料	
○農業経営ハンドブック	

到達目標
○土地利用型農業経営の特徴と課題について知る。 ○栽培体系と機械体系を理解する。 ○経営の成り立ちを理解する。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 202

講座名	水稲栽培 I	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	--------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

水稲の一生と栽培管理（育苗、移植、本田管理、幼穂発育期、登熟、収穫）
本県稲作の基本技術（品種、土づくり、食味向上、環境と調和した技術）

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回(4時間)	滋賀県稲作の特徴と課題、稲の一生（栄養成長、生殖成長）、稲の姿（葉、茎、穂、粃）
第2回(4時間)	育苗の手順、苗の種類、本田準備（耕起、砕土、整地、代かき）、田植え、分けつ期（生育・管理）、水管理
第3回(4時間)	品種、土壌区分、施肥基準、穂肥の目安、施肥管理
第4回(4時間)	登熟～収穫、乾燥調製、収量構成要素

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

農文協：農学基礎シリーズ作物学の基礎 I（学生購入）

滋賀県：稲作技術指導指針（配布）

自作資料

到達目標

移植水稲の栽培技術が身についている。

主要品種の概要が身についている。

本県稲作の特徴が理解できている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容

○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 203

講座名	水稲栽培Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	-------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習 実験 実習 ☒ 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）
水稲の低コスト技術、こだわり栽培、新技術を学ぶ。 新しい需要（主食用以外）に向けた補助制度と経営収支について学ぶ。

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	直播（湛水直播、乾田直播）、水稲の低コスト栽培技術
第２回（４時間）	環境こだわり栽培、有機栽培、水稲新技術 等
第３回（４時間）	経営所得安定対策の内容、水田活用米穀と麦・大豆の取り組み
第４回（４時間）	経営試算（移植栽培、直播、麦・大豆の比較）
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
滋賀県稲作指導指針	
経営所得安定対策等の概要（農林水産省：パンフレット）	
経営ハンドブック	

到達目標
低コストの稲作技術が理解できている。 経営所得安定対策の概要と仕組みについて理解できている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 記述テスト ☐ 出欠状況 ☐ 提出物の有無と内容 ☐ 授業態度

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 204

講座名	麦類の栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	-------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

1. 4 麦（小麦・六条大麦・二条大麦・はだか麦）と利用方法
2. 本県麦の特徴 3. 栽培管理 4. 経営指標

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	麦類の用途、流通、本県麦作の課題（生産量、品質、収量向上）について
第2回（4時間）	播種準備（排水対策）について 栽培基本技術（播種、施肥、病害・雑草対策）
第3回（4時間）	栽培基本技術（収穫・乾燥調製）、 県内作付品種について、栽培こよみ
第4回（4時間）	経営指標（交付金体系、栽培技術と経費）、 まとめ

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

売れる麦・大豆づくりに向けての指針（滋賀県）
経営ハンドブック（滋賀県）
麦類の栽培について（講師作成）

到達目標

麦類の用途および生産状況、生産上の課題について理解できている。
栽培上の基礎技術、収量向上対策について理解できている。
収益性および交付金体系について理解できている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 205

講座名	大豆栽培	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- | | |
|--------------|-------------|
| 1、大豆をめぐる情勢 | 2、県内普及品種の特性 |
| 3、先進農家での見学 | 4、大豆栽培技術の概要 |
| 5、本県の大豆栽培の特徴 | |

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	導入、大豆の形態、生態、生育など
第2回（4時間）	現地実習（先進農家での見学）
第3回（4時間）	大豆栽培に関する技術 （品種の特性、土づくり、播種、中耕培土、病虫害防除、 雑草防除など）
第4回（4時間）	大豆栽培に関する技術（収穫～調整、その他）、総括

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・作物学の基礎Ⅰ-食用作物-
- ・売れる麦・大豆づくりに向けての指針
- ・大豆をめぐる事情（農林水産省）
- ・国産大豆の需要動向について（農林水産省）

到達目標

- ・大豆の形態、生態、生育などの基礎的な知識が身についている。
- ・大豆の栽培方法に関する技術について基礎的な知識が身についている。
- ・大豆の調整方法に関する基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 206

講座名	水田雑草対策	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	--------	----	---------	------	---------------------------------------	----------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	☒ 前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	☒ 講義	演習	実験 実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① 主要水田雑草の種類と特徴
- ② 水田雑草防除技術、除草剤の種類、農薬に頼らない雑草防除技術
- ③ 麦・大豆の主要雑草と防除技術

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	水田雑草防除技術
第2回（4時間）	主要水田雑草の種類と特徴
第3回（4時間）	除草剤の種類、農薬に頼らない雑草防除技術
第4回（4時間）	麦・大豆の主要雑草と防除技術
第5回（4時間）	
第6回（4時間）	
第7回（4時間）	
第8回（4時間）	

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○講師作成教材

到達目標

水田雑草対策の基本技術を習得することができる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
○授業態度

評価基準

本講座は、講義およびほ場での観察を組み合わせ、作物の主要病害虫およびそれらの防除技術について理解を深める科目であり、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 207

講座名	土地利用型園芸Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習	実験 実習	見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
・水田作野菜の栽培・作付体系（土地利用型作物と組み合わせた土地利用体系） ・水田作露地野菜や加工業務用途向け栽培を導入する農業経営の特性 ・排水対策の重要性とその手法 ・キャベツ、ハクサイ、ブロッコリー、タマネギ、白ネギ、小菊に関する栽培・経営各論

授業内容（４時間を１回分とした内容）	
第１回（４時間）	（講義）水田で栽培できる野菜の種類、水田での栽培における留意点、露地水田野菜を導入する農業経営について
第２回（４時間）	（講義）排水対策、作付体系（土地利用体系、ほ場のローテーション）加工・業務用途向け栽培の特徴について
第３回（４時間）	（講義）各品目の花芽分化特性や育苗技術について、キャベツ、ブロッコリー・ハクサイの栽培について
第４回（４時間）	（講義）タマネギ、白ネギ、小菊の栽培について （見学）土地利用型大規模経営体における収穫機を用いたキャベツ収穫作業（講義時間が確保でき、見学先の許可が得られた場合に実施）

使用教科書（テキスト）

新野菜づくりの実際（葉菜Ⅰ、根茎菜Ⅱ）

自作資料および農水省HP、農畜産業振興機構HP、農業機械メーカーHPを使用

到達目標
土地利用型経営に水田野菜を導入する意味を考える。 消費者・流通・生産者それぞれの立場から露地水田野菜各品目のイメージをとらえ、経営形態や経営戦略を考える。 家計消費向け栽培と加工・業務用向け栽培の違いを理解する。 各品目の生理生態に基づき、具体的な栽培方法を理解する。 排水対策の必要性を理解し、排水対策技術の基本を身に着ける。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○記述テスト ○出欠状況

評価基準
本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 208

講座名	土地利用型園芸Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験	有	無
-----	----------	----	---------	------	---	---

科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

水田野菜作経営のイメージ、水田作土地利用体系への野菜導入パターン、排水対策、加工・業務用野菜栽培の特性 ダイコン、カブ、ニンジン、ネギ、タマネギ等に関する各論（根菜・葉菜）

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	ダイコン等
第2回（4時間）	カブ・ニンジン等
第3回（4時間）	タマネギ等
第4回（4時間）	ネギ等
	※各品目において、それぞれ水田野菜作経営のイメージ、土地利用パターン・排水対策、加工業務用野菜栽培の特性に関するポイントを説明

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

自作資料：水田作経営を取り巻く情勢（農水省統計データ）、水田野菜の特徴から経営をイメージする、排水の基本知識と排水促進、各品目の性状および作型、栽培管理方法、病虫害防除、機械化の方向性、経営上の特性 など

到達目標

水田での露地野菜栽培における、栽培管理の基本的な知識、注意点を習得する。また、水田野菜部門を導入した経営の特徴や、メリット、デメリットを整理し、水田野菜作経営についてのイメージを描くことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

○記述テスト ○出欠状況 ○授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 209

講座名	農業機械 (水田作業機)	担当	J A 職員 農大職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	-----------------	----	----------------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1 年 ☐ 2 年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数 (単位数)	32時間 (2単位)
授業形態 (○記入)	☒ 講義 ☐ 演習	実験 ☒ 実習	見学

科目内容 (教育研修計画より転記も可)

トラクター、コンバイン、田植機の構造と機能及び整備

授業内容 (4時間を1回分とした内容)

第1回 (4時間)	コンバインの構造と整備 (講義、及び実技研修)
第2回 (4時間)	コンバインの基本構造と機能、及び点検整備について
第3回 (4時間)	トラクター、田植機の構造と整備 (講義、及び実技研修)
第4回 (4時間)	トラクター、田植機の基本構造と機能、及び点検整備について
第5回 (4時間)	耕うんの仕方とトラクタの構造 (実技)
第6回 (4時間)	草刈り機の構造と作業法 (実技)
第7回 (4時間)	コンバインの点検整備 (実技)
第8回 (4時間)	田植え機の点検整備 (実技)

使用教科書 (テキスト) 書籍名、自作資料の内容を記入

教育用講習テキスト (重農機整備センター)

到達目標

トラクター、コンバイン、田植機の構造と機能および整備のための点検項目について習得する。

評価で重視する内容 (テスト・レポート等の有無、その他 (授業態度・出欠))

○ 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
○ 授業態度

評価基準

本講座は、講義を主とする科目であることから、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 210

講座名	植 物 保 護	担当	県 農 業 技 術 職 員	実務経験	有 無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農		
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）		
授業形態（○記入）	講義 演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

作物保護の重要性，病気の基礎知識，伝染方法，病害の原因と診断，病害の発生と環境条件，害虫の生態、防除対策、作物保護の手段

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	作物保護の重要性、植物病理学、応用昆虫学とは
第2回（4時間）	病害の伝染・病害の発生と環境条件病害の発生と環境条件・病害の診断作物保護の手段
第3回（4時間）	各種害虫防除法と殺虫剤抵抗性 主要な農業害虫の生態と生態を考慮した防除技術
第4回（4時間）	基本的な病虫害管理手法と総合的病虫害防除（IPM）の概念

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- ・自作資料（参考図書：「植物防疫講座（病害、害虫・有害動物編）」日本植物防疫協会、「現代応用昆虫学」朝倉書店 他）
- ・減農薬害虫防除DVD（農文協）

到達目標

- 作物保護の重要性について理解することができる
- 各種作物の病害、虫害の種類、生態に理解できる
- 病虫害の発生生態と環境条件，病虫害の診断について理解することができる
- 作物保護のさまざまな手段について理解することができる

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は，講義を主とする科目であることから，評価は筆記試験やレポート等の成績のほか，出席日数，受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により，50点以上を合格とし，50点未満を不合格とする。なお，成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について，本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし，追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 211

講座名	作物病虫害	担当	県農業技術職員	実務経験	有 無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年 2年 就農		
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）		
授業形態（○記入）	講義 演習	実験	実習	見学	

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① 水稻・麦・大豆に発生する病虫害の診断と生態
- ② 農薬の特性と安全利用、防除技術（耕種・物理・生物防除）
- ③ 総合的病虫害管理技術（IPM）

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	作物病虫害の観察・見分け方 （県内の病害・虫害常発地を巡回し、各現場で講義：バスで1日）
第2回（4時間）	
第3回（4時間）	作物病害全般の講義
第4回（4時間）	作物虫害全般の講義

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

- 講師作成教材 ○ 稲作技術指導指針
- 売れる麦・大豆づくりに向けての指針
- 農作物病虫害雑草防除基準 ○ 図解でよくわかる農薬のきほん

到達目標

- 作物の主要病虫害について基礎的な知識が身についている。
- 現場で主要病虫害を見分ける能力が身についている。
- 病虫害の生態を理解し、防除適期と防除技術を理解できている。
- 総合的病虫害管理技術について基礎的な知識が身についている。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 記述テスト ○ 出欠状況 ○ 提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義および現場での演習を組み合わせ、作物の主要病虫害およびそれらの防除技術について理解を深める科目であり、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 212

講座名	稲作経営	担当	元県職員	実務経験	有	無
科目の種別	教養 共通 専攻	対象学生	1年	2年	就農	
学期	前期 後期	時間数（単位数）	16時間（1単位）			
授業形態（○記入）	講義 演習	実験	実習	見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

- ① 稲作に関わる歴史的背景を知る
- ② 稲作に関する民族学的知見を知る
- ③ 稲と食文化に関する新たな知識を得る

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1回（4時間）	稲作のはじまり「稲の王」としての天皇
第2回（4時間）	稲作が生んだ武家政権 稲作と貨幣
第3回（4時間）	現代社会における稲と米
第4回（4時間）	まとめ（総括して）
	すべての回で発表を中心に検討をすすめます

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

○政治の米、経済の米 文化の米（山川出版）

必要に応じて追加資料を準備します。

到達目標

稲作経営について幅広い知識の習得を目指す。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

- 試験 ○出欠状況 ○提出物の有無と内容
- 授業態度

評価基準

本講座は、講義および演習を組み合わせ、主として稲作経営について理解を深める科目であり、評価は筆記試験やレポート等の成績のほか、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。100点法により、50点以上を合格とし、50点未満を不合格とする。なお、成績評価50点以上の科目についてその単位を認定する。成績評価が50点未満で不合格となった科目について、本人からの願い出により追試験を行う。追試験は原則1回とし、追試験による合格の評価は可とする。

滋賀県立農業大学校シラバス 213

講座名	専攻演習（ゼミナール）Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	1年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 214

講座名	専攻演習Ⅱ（ゼミナール）	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	--------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	32時間（1単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① 選定した課題について文献を収集・整理し、論点整理をするとともに発表討議を行う。
② 技術・経営について検討を加え、常に問題意識を持つように努め、発表力の向上を図る。

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～8回 （32時間）	2年次において選定した課題について、文献を収集・整理し、論点整理をするとともに技術・経営について検討を加え、発表力の向上を図る。
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題を発見し、解決に向けた情報収集、整理して取り組むことができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準
本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 215

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅰ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	☒ 1年 ☐ 2年 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	448時間（14単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1～112回 (448時間)	1年次において、自身が定めた専攻で、農作物栽培の基本技術を習得する。
--------------------	------------------------------------

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

なし

到達目標

課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準

本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 216

講座名	実習およびプロジェクト学習Ⅱ	担当	県農業技術職員	実務経験 ☒ 有 ☐ 無
-----	----------------	----	---------	---

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 ☐ 就農
学期	☒ 前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	544時間（17単位）
授業形態（○記入）	講義 演習 実験 ☒ 実習 見学		

科目内容（教育研修計画より転記も可）

農作物栽培の基本技術を習得するとともに自らの経営計画に基づく実践的技術や専門知識の理論づけを行い各自がプロジェクトとしてまとめる。

授業内容（4時間を1回分とした内容）

第1～136回 (544時間)	2年次において、自らの経営計画に基づくプロジェクトの実施および取りまとめを行う。

使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入

なし

到達目標

課題解決に向けた取り組みを実施することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）

☐ 授業態度 ☐ 出席日数

評価基準

本講座は、実習科目であることから、評価は出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。

滋賀県立農業大学校シラバス 217

講座名	卒業論文	担当	県農業技術職員	実務経験	☒ 有	☐ 無
-----	------	----	---------	------	------------------------------------	-------------------------

科目の種別	教養 共通 ☒ 専攻	対象学生	1年 ☒ 2年 就農
学期	前期 ☒ 後期	時間数（単位数）	160時間（5単位）
授業形態（○記入）	講義 ☒ 演習	実験	実習 見学

科目内容（教育研修計画より転記も可）
① プロジェクトの内容の検討と課題の決定
② 課題解決し、プロジェクトとしてとりまとめる
③ 報告会での発表と論文として発刊する

授業内容（4時間を1回分とした内容）	
第1～40回 (160時間)	内容の検討、課題の決定、とりまとめと発表
使用教科書（テキスト）書籍名、自作資料の内容を記入	
なし	

到達目標
課題解決に向けた取り組みを分かりやすく発表することができる。

評価で重視する内容（テスト・レポート等の有無、その他（授業態度・出欠）
○授業態度 ○出席日数

評価基準
本講座は、演習科目であることから、評価は、成果物、出席日数、受講態度を考慮して総合的に評価する。